横浜YMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。　No.497 2019

YMCANews 9

2019年9月1日発行
（毎月1日・1回発行）
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行／公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721
横浜青年

スポーツとYMCA

横浜YMCA健康教育事業推進　北田　純一

体を動かしやすい秋を迎えます。2020年東京五輪・パラリンピック開催まで300日あまりとなりました。NHK大河ドラマ「いだてん 東京オリムピック噺（ばなし）」では、当時のスポーツの普及にYMCAの関わりも紹介されました。今号では「スポーツとYMCA」を紹介し、体を動かすことにより、心身共に健康な日々を送ることにつなげていきたいと思います。

▲横浜YMCAでは1976年に横浜中央YMCA新会館オープンに伴い、室内プールが設置され水泳を中心とした青少年・幼児教育がはじまり、今につながっている。

私たちを取り巻く生活環境は、大きく変化しています。利便性の向上、情報化社会の進展、労働形態の変化などにより便利な生活ができるようになった反面、運動不足やストレスの増加につながり、人びとの健康を脅かす要因の一つにもなっています。自由時間の増大や高齢化の進展は、明るく健康な生活への関心を高め、以前にも増して、健康で明るく豊かな生活を求めるようになっています。

また、子どもたちは、体を動かす機会の減少や生活習慣の乱れから、体力・運動能力が低下しているという報告があります。体力は、子どもたちが豊かな人間性を培い、自ら学び、考えるといった「生きる力」を身につける上で重要な要素であり、体力の向上は、次代を担う子どもたちの心身の健全な発育・発達のため、社会全体で取り組まなければならない課題の一つであると言えます。

2020年東京五輪では、33の競技が実施されますが、野球、ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンが新たな種目として加わります。既存の種目である水泳やバスケットボール、バレーボール、フェンシングなどの歴史をたどるとYMCAがその紹介や普及の一翼を担ってきました。

横浜YMCAでは、1927年に関東大震災でダメージを受けた会館を全面増改築し、室内体育場も設置され活動が盛んになりました。体育場では、1930年にデンマーク体操、1931年に神奈川県第1回バレーボール大会がYMCAの主催で行われました。この体育館では、バスケットボール（下枠記事）や、体操なども行われました。バドミントンは、1921年に横浜YMCA体育主事の広田兼敏氏が、名誉主事のS・スネード氏からバドミントン用具一式を譲り受け、横浜の欧米人によって運営されているスポーツクラブで手ほどきを受けたことが始まりといわれ、1933年には、横浜YMCAの活動に取り入れ広く伝えられました。1940年代当時は、スポーツなどにより青年の敗戦による心のダメージの解消につながりました。

横浜YMCAでは、現代社会の中で子どもから高齢者までのあらゆる世代が、スポーツや運動を通して、心身共にバランスのとれた健康な生活を送るサポートを続けていきたいと思います。

北米YMCAで考案のバスケットボールを紹介

バスケットボールは、アメリカのマサチューセッツ州スプリングフィールドの国際YMCAトレーニングセンター体育教師のJ・ネイスミスが冬季のスポーツとして1891年に考案しました。同スクール（現・スプリングフィールド大学）を卒業した、東京YMCA体育主事大森兵蔵が1908年にバスケットボールを日本に紹介し、横浜で最初に作られた横浜YMCA（現横浜中央YMCA）の体育館で紹介されました。8月には全国YMCAの大会が三重県で開催されます。

地域に根差した社会教育活動に1976年に横浜文化賞受賞

横浜YMCAは、「人間としての豊かさを求めて」をテーマに、豊かなコミュニティーを作ろうと、横浜中央YMCAをはじめ、横浜北（菊名センター）・藤沢YMCAなどを設置し活動を展開しました。1976年には、戦前からの永きにわたる職能教育、スポーツ振興活動に対して「横浜文化賞」を受賞しました。「すべての人に体育を」とスローガンを掲げて、肢体不自由児のための水泳キャンプ、目の不自由な子どもたちの水泳教室を開催しました。

ホドス

今年の「敬老の日」は16日、この日の目的は、「社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」であるらしい。誰に祝われ励ましてもらうのか。若い世代からと考えるのが自然だろうが、歳をとって自分を振り返ると、私の社会的な貢献は昔も今も怪しく、若い世代から敬愛されるようなものでない。ただ高齢の日々は結構難しい時なのは間違いない▼私はこれまで「無理に自分の老いを無視せず、かつ、あまり老いに服従しない」を意識してきたつもりだが、最近の自分を思うと、老いの衰えを無視などできず、服従せざるを得ないことが多くなってきた。体力と気力の衰え、夜の読書は全く無理、医者が、あなたの指先のリウマチは軽いと励ましてくれるが、不快な痛みと字を書く難しさが私には重症そのもの▼そんなことを関西に住む60年来の友人に電話で愚痴ると、キケロの「友情論」で語られる最高齢者大カトーは85歳、君の80歳はまだ若いと笑い飛ばされた。この友人は3年前にお連れ合いを天に送り一人暮らしの88歳。少し前には、今年も仲間との写真展の案内があり、神戸に来たら神戸港のクルーズをしてフランス料理を食べようと一筆添えてあった▼彼も私もあの2千万円騒動には無関係なつましい年金生活者だ。違いは彼が厳しい病を経験し、かつお連れ合いの死を経験しているのになお明るい。今度の電話では高齢を愚痴るより高齢の明るさの秘訣を聞くことに決めている。（準）